

(旧) 県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期 平成 26 年 8 月

テーマ 地域の特性を活かしながら暮らしやすい街づくりを目指して

寄稿者 白川台ふれあいのまちづくり協議会

白川台は、神戸市須磨区の最北端に位置し、人口約 1 万 2 千人が生活する街です。

平安時代より楊梅(山桃)を朝廷に献上したり、源平合戦で源義経の伝説などが多い、古い歴史と伝統を持つ旧白川村と昭和 4 5 年頃に開発された白川台ニュータウンとにより構成されています。

ニュータウンから坂を下り、旧白川村に入ると、まだ山あいには田園風景が残り、夏には蛍も飛んでいる所があります。古い村と新しいニュータウンが一体となって地域の発展を図っている地域です。

活動の中心は、ニュータウンにある白川台地域福祉センターですが、高台にあるうえ、施設の老朽化に悩んでいたところ、県民交流広場事業に取り組むことにより、諸設備・付器・備品が整備され、活動拠点としての活動も活発に行えるようになりました。

とくに、厨房は拡張され設備も一新されたため、見違えるようになり、使い勝手も向上しました。県民交流広場事業として料理教室がスタートしましたが、従来からの当地域の特色である手づくりの給食活動などにも便利で効率よく利用できるようになり、大変喜ばれています。

折りたたみ机・椅子も増え、スクリーンも設置され、県民交流広場事業の講演会・ガーデニング教室・絵手紙・映写会などの活動にも大変役立っています。パソコンを購入し、パソコン教室もスタートしましたが、パソコンの知識が乏しかった高齢者の方々には好評です。

地域の歴史と文化を知ってもらうための講演会や歴史探訪会も実施しております。

更に、活動資金の活用により講師の選定・材料費の補助などもスムーズになり、県民交流事業の参加者も増え、従来からの行事も活発化し、地域福祉センターを訪れる方々が大変増加しました。

当地域の特徴としては、古い村の方々との連携があり、とんど祭りでの竹の利用、子供向けのカレーパーティー・敬老の集い・借りた農園を使って栽培した玉葱やさつまいもを材料として利用した給食会があり、特色ある行事となっています。

県民交流広場事業は来年3月で終了しますが、そのあとの事業をどうしていくか、地域内の一体感をどう保っていくか、また、どうしても高齢者が多く中心になっており、若い人々の参加をどのように増やしていくかなど課題も多くあります。